

学会記事

I. 運営委員会報告

2004年10月29日に宮崎市(ホテルマリックス)において開催した。審議事項は以下のとおり。

- ① 年会費の徴収方法について審議し、郵便局の自動払込制度を利用して口座からの自動引き落としを可能にすることとした。
- ② 会長および運営委員選挙に係わる選挙管理委員会を、星野幹事長を委員長として設置することとした。
- ③ 運営委員選挙の実施に関して、地区選出運営委員の投票方法について審議し、記名数を各地区の定数+1名とすることとした。
- ④ 表彰委員会による植生学会表彰規定改正(案)について審議し、これを承認した。
- ⑤ 2003年度決算(案)について審議した。
- ⑥ 2004年度予算(案)について審議した。

II. 編集委員会報告

2004年10月29日に宮崎市(ホテルマリックス)において開催した。

III. 企画委員会報告

2004年10月29日に宮崎市(ホテルマリックス)において開催し、植生データベースの構築について審議した。

IV. 表彰委員会報告

2004年10月29日に宮崎市(ホテルマリックス)において開催し、学会特別賞の創設について審議し、植生学会表彰規定改

正(案)を作成した。

V. 2004年度総会報告

2004年10月30日に宮崎大学木花キャンパスにおいて2004年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

A. 報告事項

1. 運営委員会

- ① 植生学会表彰規定の改正(別掲1)。
- ② 運営委員選挙における投票方法の変更について。
- ③ 年会費の自動引き落としの実施について。

2. 事務局(庶務関係)

2004年10月18日現在の会員数は、正会員568名、団体会員16団体である。

3. 事務局(編集関係)

- ① 2003年10月から2004年9月までの間に、植生学会誌20巻2号(原著論文5編、論文頁数58頁)と同21巻1号(原著論文4編、論文頁数50頁)を発行した。
- ② 2004年3月に植生情報第8号(頁数76頁)を発行した。
- ③ 2003年10月19日~2004年10月28日の期間の投稿論文数は25編。

B. 承認事項

1. 2003年度収支決算(別掲2)
2. 2004年度収支予算(別掲3)

C. その他

第10回大会開催地となる広島大学の豊原源太郎氏より、多数会員の参加が要請された。

別掲1. 植生学会表彰規定改正条項

旧	新
第4条 [表彰委員会] 前条の各表彰の候補者を選考するために、表彰委員会を設ける。表彰委員会は表彰委員長と若干名の表彰委員で構成する。表彰委員会は各賞の受賞候補者について審議し、それぞれの受賞候補者を選定する。	第4条 [表彰委員会] 前条の各表彰の予定者を選定するために、表彰委員会を設ける。表彰委員会は表彰委員長と若干名の表彰委員で構成する。表彰委員会は各賞の受賞候補者について審議し、それぞれの受賞予定者を選定する。
第6条 [学会賞] 本会に5年以上所属し、植生学に関して優れた業績によってとくに貴重な学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。学会賞の選考対象となる業績には、植生学会誌掲載論文のほか、植生学に関するその他の論文・著書も含める。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から選考する。	第6条 [学会賞] 本会に5年以上所属し、植生学に関して優れた業績によって貴重な学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。学会賞の選考対象となる業績には、植生学会誌掲載論文のほか、植生学に関するその他の論文・著書も含める。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から受賞予定者を選定する。 2) 表彰委員会は植生学に関してとくに優れた多くの業績をあげ、多大な貢献をした者を第1項の規定にかかわらず「学会特別賞」受賞予定者として選定することができる。
第7条 [奨励賞] 本会が発行した刊行物に優秀な論文を発表し、独創性と将来性をもって学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。選考の対象者は当該年度の4月1日において35歳以下とし、過去に奨励賞の受賞経験のない者とする。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から選考する。	第7条 [奨励賞] 本会が発行した刊行物に優秀な論文を発表し、独創性と将来性をもって学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。選考の対象者は当該年度の4月1日において35歳以下とし、過去に奨励賞の受賞経験のない者とする。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から受賞予定者を選定する。
第8条 [功労賞] 植生学にかかわる研究、調査、教育、啓発普及や本会の運営に関し、特に顕著な功績があったと認められる者に授与する。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から選考する。	第8条 [功労賞] 植生学にかかわる研究、調査、教育、啓発普及や本会の運営に関し、特に顕著な功績があったと認められる者に授与する。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から受賞予定者を選定する。

別掲 2. 植生学会 2003 年度収支決算

(単位: 円)

収入の部		予 算	決 算	差 異	備 考
前期繰り越し		3,271,784	3,271,784	0	
会費		3,462,000	3,068,000	394,000	
雑収入	バックナンバーなど	300,000	544,550	-244,550	
	利息	500	22	478	
計		7,034,284	6,884,356	149,928	
支出の部					
本誌刊行費	850,000 円×2 回	1,700,000	1,726,187	-26,187	
情報誌刊行費	300,000 円×1 回	300,000*	277,935	22,065	*植生情報第 7 号
送料		250,000	211,385	38,615	
学会事務局経費		400,000	248,407	151,593	
編集事務局経費		150,000	92,204	57,796	
情報誌編集費		40,000	11,210	28,790	
企画委員会経費		100,000	39,488	60,512	
大会補助費		250,000*	250,000	0	*第 8 回大会分
予備費		3,844,284	5,580	3,838,704	
計		7,034,284	2,862,396	4,171,888	
収支差額(繰り越し)		0	4,021,960	-4,021,960	

別掲 3. 植生学会 2004 年度収支予算

(単位: 円)

収入の部		2004 年度	2003 年度	差 異	備 考
前期繰り越し		4,021,960	3,271,784	750,176	
会費		3,356,000	3,462,000	-106,000	一般 488 名, 学生 101 名, 団休 15
雑収入	バックナンバーなど	300,000	300,000	0	
	利息	500	500	0	
計		7,678,460	7,034,284	644,176	
支出の部					
本誌刊行費	850,000 円×2 回	1,700,000	1,700,000	0	
情報誌刊行費	300,000 円×1 回	300,000*	300,000	0	*植生情報第 8 号
送料		250,000	250,000	0	
学会事務局経費		500,000	400,000	100,000	会員名簿作成費含む
編集事務局経費		150,000	150,000	0	
情報誌編集費		40,000	40,000	0	
企画委員会経費		300,000	100,000	200,000	文献データベース構築費
大会補助費		250,000*	250,000	0	*第 9 回大会分
予備費		4,188,460	3,844,284	344,176	
計		7,678,460	7,034,284	644,176	

VI. 植生学会第9回大会報告

植生学会第9回大会が、2004年10月29日から31日にかけて宮崎大学木花キャンパスにおいて開催された(下記日程)。一般講演では口頭34題、ポスター19題の発表が行われた。参加者は予約申込者147名、当日参加者24名の計181名であった。

10月29日：各種委員会、運営委員会

10月30日：一般講演(口頭発表・ポスター発表)、総会、懇親会

10月31日：エクスカージョン(綾照葉樹林)

一般講演は以下のとおりであった。

<口頭発表>

- A01 冷温帯生広葉草本種が示す生育立地の地理的差異に関する植生史的背景。蛭間啓・福嶋司(東京農工大・農)
- A02 サキシマフヨウ(アオイ科)の分布・生態・形態。中西弘樹・岩城太郎(長崎大・教育・生物)
- A05 立地の違いによるハルニレ当年実生の発生パターン。野宮治人・金指達郎・鈴木和次郎(森林総研)
- A06 大分川河川敷の実生ヤナギ林の動態について。桑原佳子・足立高行((社)大分野生生物研究センター)
- A07 本州中部の扇状地河川沿いに成立するコナラ林の分布と種組成。野田浩・吉川正人・福嶋司(東京農工大・農)
- A08 北海道東部当幌川の河辺植生とその立地環境。高田和典(北海道大・院・農)・富士田裕子(北海道大・植物園)
- A09 福井県の里地河川における植生回復のための基礎的研究—植物群落の分布に基づく河辺植生景観の類型とその評価—。矢ヶ崎朋樹・村上雄秀(国際生態学センター)・向川泰弘(福井県雪対策・建設技術研究所)
- A10 西表島の亜熱帯林における地形・土壌水分傾度と林木種空間分布の関係。久保田康裕(鹿児島大・教育)・相場慎一郎(鹿児島大・理)
- A11 箕面における山林利用の歴史と植生変遷。山崎俊哉・丸井英幹・梅原徹(環境設計株式会社)
- A12 アカマツ二次林とコナラ二次林の群落分類について。豊原源太郎(広島大・院理・宮島)
- A13 照葉樹林の種多様性。服部保(兵庫県立大)
- A14 九州地方における常緑広葉樹林域での林冠優占樹種の分布構造に関する研究。中尾勝洋・福嶋司(東京農工大・農)
- A15 宮崎県高岡町における老齢照葉樹林の林分構造。佐藤保(森林総研)・江藤幸二(九州森林管理局森林技術センター)・齊藤哲(森林総研・九州)
- A16 大分県西部・玖珠川河岸急崖地(阿蘇溶結凝灰岩)上部のシラカシ群集。須股博信(大分)
- A17 コジイ林の再生様式—伐採後18年間の動態—。田内裕之・佐藤保・埜田宏(森林総研)・中松松三(国際農研)
- A18 九州東・南部におけるアカガシ亜属7種の生態分布。伊藤哲・大塚久美子(宮崎大・農)・山下寿之(富山県中央植物園)
- B01 冬緑種を主要構成種とする暖温帯の沢沿いソデ群落。大野啓一(千葉県中央博)・磯谷達宏(国士館大)・小川みふゆ(森林総研)
- B02 東播磨南部におけるウンズケ属植物の個体数推定。野寄玲児・岸本陽子・清川真理子・櫻井利恵(神戸女学院大・人間科学)

- B03 内蒙古シリングル草原における農耕が典型草原におよぼす影響。川田清和・中村徹(筑波大・生命環境科学)
- B04 ウクライナ、ハリコフ周辺におけるステップに関する植生学的研究。程云湘・中村徹(筑波大・生命環境科学)
- B05 中国青海省のチベット高原における草原植生の優占種の分布について。西脇亜也・宋仁徳・李国梅・長谷川信美・井戸田幸子(宮崎大・農)・福田明(静岡大・工)
- B06 幼齡ヒノキ造林地における黒毛和種雌牛の行動とスキ現存量の変化。小蘭正治・長谷川信美・R. Chowdappa・塚本武弘・鈴木志帆・野上寛五郎・藤代剛・園田立信(宮崎大・農)
- B07 北上川河口域におけるヨシ原の毎土種子集団。竹原明秀(岩手大・人文社会)
- B08 大森湿地の特性と植生変化。中西正(豊橋高)・柴田美子
- B09 沖縄県沖縄市泡瀬干潟のカワツルモ群落と生育環境。菊池亜希良(広島大・総合科学)・新井章吾((株)海中景観研究所)・玉置仁(石巻専修大・理工)
- B10 房総半島南部の地すべり地植生とその保全に関する研究。三谷修・福嶋司(東京農工大・農)
- B11 蒸散散に伴う地盤の応答。汪偉川・河井克之(神戸大・工)・飯塚敦(神戸大・都市安全センター)
- B12 植生と格子間隔の異なるDEMより算出される地形情報との対応関係。大田謙・波田善夫(岡山理科大・総合情報)
- B13 異なる分解能の衛星データを用いた植生解析。原慶太郎・鎌形哲稔(東京情報大・環境情報)・李雲慶(日本スペースイメーシング)・江田敏幸(プラトール研究所)
- B14 岡山県北部における湿原植生の40年間の変遷—集水域での植生管理の変化が湿原植生に及ぼした影響—。片岡博行(岡山大・資生研)・西本孝(岡山県自然保護センター)・波田善夫(岡山理科大・総合情報)
- B15 美唄湿原の高層湿原植生の復元実験—自動給水による地下水位の制御は植生復元に有効であるか—。小池宏和(北海道大・院・農)・永田修(北海道農業研究センター)・飯山一平(北海道大・院・農)・富士田裕子(北海道大・植物園)
- B16 関西電力株式会社における持続可能な環境保全林の発達経過について。植野誠二(関西電力株式会社)
- B17 大規模環境保全林の造成に関わる提案。菅沼孝之。小野由紀子(関西総合環境センター)
- B18 鉄道法面緑地は豊かな生物生息空間。青島正和・西村正和(大成建設)・上谷兼一・小塩恒夫(小田急電鉄)

<ポスター発表>

- P01 植生情報データベースの作成。埜田宏・島田和則(森林総研)
- P02 鳥類の生息環境評価のための植生図のあり方を考える。橋本啓史(京都大・農院)
- P03 半自然草原における人為圧の植生への影響と蝶(成虫)の分布との関係。久保満佐子(山梨県森林総合研究所)・小林隆人・北原正彦(山梨県環境科学研究所)・林敦子(山梨県森林総合研究所)
- P04 トウネズミモチとネズミモチの生態的相違と共存可能性について。伊藤千恵・藤原一繪(横浜国大・環境情報)
- P05 帰化タンポポは日本に来てどのように変化したか—愛知

- 県岡崎市のタンポポの遺伝的特性ー。渡邊幹男・小柳絃美・鈴木愛（愛知教育大・生物）・櫛田敏宏（愛知教育大附属高）・鈴木健介・岩瀬亮・彦坂和秀（岡崎高）・芹沢俊介（愛知教育大・生物）
- P06 春日山照葉樹林における移入種の分布と要因解析：GPSとGISによる量的把握。前迫ゆり（奈良佐保短大・生態）・名波哲（大阪市大・院・理）神崎護（京都大・院・農）
- P07 河川法面の刈り取りによるセイタカアワダチソウの抑制。開原明・岡田久美子・西脇亜也（宮崎大・農）
- P08 畦畔法面植生における種子供給源からの時空間的距離と出現種数との関係。松村俊和（兵庫県宝塚農林振興事務所）
- P09 絶滅危惧植物ホソバヒメトラノオの生活史特性。山野紀子・高橋愛美・石川慎吾・三宅尚（高知大・理）
- P10 草原生絶滅危惧植物数種の生態学的特性と個体群構造。田川哲・河野円樹・菊地なつき・宮本裕美子・石川慎吾・三宅尚（高知大・理）
- P11 阿万吹上浜（淡路島）に成立した海浜植生の群落構造と立地要因。笹木義雄・森本幸裕（京都大・院・地球環境）
- P12 高知県南西部における海食崖上の群落組成と海岸線の関係。土畑正和・大野啓一（横浜国大・院・環境情報）
- P13 日本海側分布北限域のスダジイ林の群落構造。山下寿之（富山県中央植物園）
- P14 山陰東部ー氷ノ山・扇ノ山ブナ林，林分構造からみた現状。永松大（鳥取大・地域・地域環境）
- P15 種子島におけるヤクタネゴヨウ林分の種組成と群落構造。金谷整一（森林総研・生態遺伝）・名越裕一・武生雅明・中村幸人（東京農大・森林生態）
- P16 上高地におけるハルニレ林の更新動態。和田美貴代・菊池多賀夫（横浜国大・院・環境情報）
- P17 幼齢造林地放牧における黒毛和種雌牛の行動とその環境に与える影響ー1997年から2001年までの実験・調査結果ー。長谷川信美・小蘭正治，Rekha Chowdappa・野上寛五郎・平田昌彦・高木正博・園田立信（宮崎大・農）
- P18 Grazing behaviour and rumen characteristics of Japanese Black Cattle in native pasture. R. Chowdappa, N. Hasegawa (Fac. Agric., Univ. of Miyazaki), M. Goto (Fac. of Bioresources, Mie Univ.), A. Nishiwaki, T. Fujishiro, T. Sonoda (Fac. Agric., Univ. of Miyazaki)
- P19 施肥条件下でのススキの生産力と窒素吸収量に関する研究。村山和也・西脇亜也（宮崎大・院・農）